

書式 2

教育研究業績書		
令和 5年 3月 31日		
氏名 酒井 律子		
研究分野	研究内容のキーワード	
臨床心理学, 健康心理学, 臨床実践指導学	心理療法, 心理臨床スーパーヴィジョン, 学校臨床心理学, 健康心理学, 心理教育	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践例		
2. 作成した教科書、教材		心理臨床実践の自験例（終結事例）の中で、来談者の許可を得て専門誌等に既に掲載されているものを資料として使用した。又は、来談者の許可を得ている事例を、口述にて使用した。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		学生による授業評価は比較的高く、特に、学生のリアクションペーパーへのフィードバック、授業内容の専門性、学生の質問への対応、解説の分かりやすさ等の項目において高評価を得ている。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 現職学校教職員を対象とする研修および学校地域社会援助	昭和 62. 4. 1 ～ 平成 26. 3. 31	公立教育相談機関に所属のカウンセラーとして、所管教育機関の教職員を対象とする研修に従事し、カウンセリングに関する種々の研修（講義・実習）を担当した。また学校地域社会援助としての研修・講演等を担当した。
(2) 大学に内地留学する現職教員への指導・助言	平成 4. 4. 1 ～ 平成 17. 3. 31	公立教育相談機関に所属のカウンセラーとして、大学に内地留学中の現職学校教員が担当する相談事例に対し、スーパーヴィジョンを行うとともに、研修報告書作成の指導助言を行った。
(3) 「臨床心理士養成系指定大学院」に在籍する大学院生の、現場実習における指導・助言	平成 12. 9 月 ～ 平成 17. 3 月	公立教育相談機関に所属のカウンセラーとして、現場実習生として受け入れ契約を締結している「臨床心理士養成系指定大学院」の大学院生に対し、社会人としての基本事項について指導・助言を行うとともに、公立教育相談機関における心理臨床業務の概観が理解できるよう実習生のサポートを行った。
(4) 「臨床心理士養成系指定大学院」に在籍する大学院生のスーパーヴィジョン	平成 17. 4 月～	大学院生が訓練として担当する事例についてのスーパーヴィジョンを行った。

(5) 教育, 研究機関における講演等 講演: 甲子園短期大学	(平成 29 年度分までは略) 令和元. 7. 12	短期大学 2 年生を対象とする特別演習において講演を行った。テーマ:「自立に向けて - 健康な生活に向けて」於; 甲子園短期大学 (西宮市)
5. その他		
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許 (1) 中学校教諭一級普通免許状取得 [外国語: 英語] (2) 高等学校教諭二級普通免許状取得 [外国語: 英語] (3) 「臨床心理士」取得 (4) 「公認心理師」取得	昭和 55. 3. 31 昭和 55. 3. 31 平成 2. 3. 31 平成 31. 2. 5	大阪府教育委員会 大阪府教育委員会 (財) 日本臨床心理士資格認定協会 文部科学省・厚生労働省
2. 特許等		なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 (一主に現職と関連する領域のものを記載一) (1) 調査研究 1) 日本心理臨床学会研究助成を受けた研究事業 テーマ; 「スーパーヴィジョンの充実に向けた実践的検討」 (2) ワークショップ等での報告・発表 1) 「U子の事例」(単独発表) 2) 「児童生徒とその保護者, 教職員の心を支える - カウンセラーの立場から-」(単独発表) 3) 「注意欠陥/多動性障害 (ADHD) が疑われる事例について」(単	平成 22. 10 ~平成 25. 3 平成 11. 9. 9 平成 13. 12. 8 平成 17. 11. 30	平成 22 年度 日本心理臨床学会研究助成による研究事業として採択された左記テーマについて, 研究メンバーのひとりとして研究を行った。その成果を, 日本心理臨床学会第 31 回秋季大会[平成 24. 9. 14~16, 於: 愛知学院大学 (日進市)]にて発表 (連名) した。 心理臨床における「終結」を考える例として, 本報告を行った。日本心理臨床学会第 18 回大会ワークショップ[No. 18]; 河合隼雄『心理臨床における終結』, 於; 文教大学 (越谷市) 京都教育大学附属教育実践総合センターの公開シンポジウムにおいて, 話題提供者として発表を行った。 テーマ; 教育について考えるシンポジウム『揺れる学校-子どもの心をどう理解し, いかに援助するか』, 於; 京都教育大学 (京都市) 「ADHD」が疑われる事例についての報告を行い, 心理学・臨床心理学・神経科学の視点から討論を行った。

独発表)		平成 14 年度文部科学省「21 世紀 COE プログラム」研究拠点形成事業「心の働きの総合的研究拠点」(京都大学心理学連合)；「融合研究グループ」－注意欠陥／多動性障害 (ADHD) に関する研究－, 平成 17 年度 第 10 回研究会, 於 ; 京都大学 (京都市)
4) 「新しい教育空間・洛風中学校における取組み」 (単独発表)	平成 19. 6. 23	京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーションセンターの公開シンポジウム「子どもの生命性と有能性を育てる教育への提言」において, 話題提供として実践発表を行った。於 ; 芝蘭会館 (京都市)
5) 「A 市一時留学 (ラーニング・ステイ)」を ‘こころのケア’ の視点から再考する」 (単独発表)	平成 23. 7. 17	平成 7 年の阪神・淡路大震災の発生を受けて実施された, 京都市震災支援事業のひとつ, 「A 市一時留学 (ラーニング・ステイ)」について報告を行い, 心のケアの視点から再考を試みた。
6) 『箱庭』を用いての個性化のプロセス」	平成 27. 10. 10	平成 23 年度第 1 回 日本箱庭療法学会研修会 (第 3 分科会), 於 ; 大正大学 (東京都) 「箱庭グループスーパーヴィジョン (平成 23 年～平成 27 年)」に自ら制作した箱庭作品を提示し, 個性化のプロセスについての報告を行った。 日本箱庭療法学会第 29 回大会 ワークショップ G (川戸 圓 『箱庭』を用いての個性化のプロセスの報告), 於 ; 東北福祉大学 (仙台市)
(3) 甲子園大学事業・他機関との連携事業		
①甲子園大学・宝塚市との連携 – 甲子園大学発達臨床心理センター・宝塚市子ども家庭支援センター共催事業–	平成 29 年度分までは略	
1) 宝塚市 平成 30 年度 第 1 回～第 3 回きらきら子育て講座 講師	平成 30. 5. 8 平成 30. 9. 11 平成 31. 2. 13	満 1 歳児の保護者を対象とする「子育て講座 (年 3 回実施)」においてミニレクチャーを行った。テーマ ; 「一歳児の心の世界と子育て」於 ; フレミラ宝塚 (宝塚市)
2) 宝塚市 平成 31・令和元年度 第 1 回～第 3 回きらきら子育て講座 講師	令和元. 5. 22 令和元. 9. 18 令和 2. 2. 17	満 1 歳児の保護者を対象とする「子育て講座 (年 3 回実施)」においてミニレクチャーを行った。テーマ ; 「一歳児の心の世界と子育て」於 ; フレミラ宝塚 (宝塚市)
3) 宝塚市 令和 2 年度 第 1 回～第 2 回きらきら子育て講座講師	令和 2. 9. 16 令和 3. 2. 17	満 1 歳児の保護者を対象とする「子育て講座 (年 3 回実施)」においてミニレクチャーを行った。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため 2 回の実施となった。テーマ ; 「一歳児の心の世界と子育て」於 ; フレミラ宝塚 (宝塚市)
4) 宝塚市 令和 3 年度 第 1 回	令和 3. 9. 14	満 1 歳児の保護者を対象とする「子育て講座 (年 2 回

～第3回きらきら子育て講座講師	令和4.2.25	実施)」においてミニレクチャーを行った。テーマ；「一歳児の心の世界と子育て」於；フレミラ宝塚（宝塚市）
②高校大学連携事業－出張講義	(H29年度分まで略)	
1) 高大連携出張講義 講師	平成30.4.27	高校大学連携出張講義において、第2学年の生徒を対象に授業を行った。テーマ：「こころの不調とこころのケア」於；兵庫県立宝塚東高等学校（宝塚市）
2) 高大連携出張講義 講師	平成30.12.14	高校大学連携出張講義において、第1学年の生徒を対象に授業を行った。テーマ：「カウンセリングの心理学－心のケアとは何か－」於；兵庫県立尼崎北高等学校（尼崎市）
3) 高大連携出張講義 講師	令和元12.18	高校大学連携出張講義において、第1学年の生徒を対象に授業を行った。テーマ：「カウンセリングの心理学－心のケアとは何か－（傾聴実習も交えて）」於；兵庫県立尼崎北高等学校（尼崎市）
4) 高大連携出張講義 講師	令和3.9.8	高大連携出張講義において、第1学年・中学第3学年の生徒を対象に授業を行った。テーマ：「職業人講話－臨床心理士・公認心理師のしごと」於；報徳学園高等学校（西宮市）
5) 高大連携事業 分野別進路説明会講師	令和3.11.19	高大連携事業において、進学を希望する第2学年の生徒を対象に、分野別進路説明会（心理学）を担当した。於；神戸サンボーホール（神戸市）
③その他の連携事業		
1) 甲子園大学 発達・臨床心理センター 第11回心理臨床セミナー シンポジウム 指定討論者	平成27.3.15	甲子園大学発達・臨床心理センター「第11回心理臨床セミナー」シンポジウムにおいて、指定討論者として登壇した。テーマ；「学校現場における衝動性への対応」甲子園大学発達・臨床心理センター・甲子園短期大学（共催）於；西宮市大学交流センター（宝塚市）
2) 甲子園大学 発達・臨床心理センター 第12回心理臨床セミナー シンポジウム 指定討論者	平成28.10.23	甲子園大学発達・臨床心理センター「第12回心理臨床セミナー」シンポジウムにおいて、指定討論者として登壇した。テーマ；「スクールカウンセリングにおける保護者支援」甲子園大学発達・臨床心理センター・甲子園学院短期大学（共催）於；西宮市大学交流センター（宝塚市）
3) FM宝塚ラジオ10分間講座講師	平成30.8.10	「栄養と心の目」を全体テーマに、FM宝塚のラジオ講座にてミニ講義を行った。テーマ：「大切にしたい中年期のこころ」於；甲子園大学（宝塚市）
(4) 地方自治体関連における活動（－実務職時における本務としての活動・以後の活動はH29年度分		

まで略)		
1) 京都市子どもはぐくみ局 子ども未来部育成推進課「PC マインド相談員」全体研修会 講師	平成 30. 10. 5	京都市「親と子のこころの電話」相談員を対象とする研修会において講演・実習を行った。テーマ：「感受性を拓くー自分の心の枠組みに気づき、振り返るー」於；京都アスニー（京都市）
2) 講演：大阪府立茨田高等学校	令和元. 10. 4	教職員を対象に教育相談研修を行った。テーマ；「思春期を考えるー子どもたちのために私たち大人ができることー」
3) 講演等：長岡京市教育支援センター	令和 3. 6. 22 令和 3. 10. 8 令和 4. 1. 28	長岡京市令和 3 年度課題特化型研修会（連続研修）【教育相談】において、講演および、受講者の学校での取り組み事例に対しコンサルテーションを行った。 ・第 1 回：講演 テーマ；「教育相談の基礎基本ー子どもの困り感の理解と寄り添う支援」長岡京市教育支援センター ・第 2 回：事例検討会・ミニレクチャー 長岡京市教育支援センター ・第 3 回：講演 テーマ；「信頼される教員となるために」長岡京市教育支援センター
4) 講演：京都市教育相談総合センター	令和 3. 11. 2	京都市教育委員会が主催する「令和 3 年度全校種教職員対象とする研修」の「カウンセリング基礎コース」において、講義を行った（オンデマンド視聴）。テーマ；「不登校の理解とかかわりー予防的視点も交えてー」於；京都市教育相談総合センター（京都市）
5) 講演等：長岡京市教育支援センター	令和 4. 6. 13 令和 4. 9. 12 令和 5. 1. 30	長岡京市令和 4 年度課題特化型研修会（連続研修）【教育相談】において、講演および、各受講者の学校での取り組み事例に対しコンサルテーションを行った。 ・第 1 回：講演 テーマ；「教育相談の基礎基本ー子どもの困り感の理解と寄り添う支援」長岡京市教育支援センター ・第 2 回：事例検討会（インシデントプロセス法を用いて）・ミニレクチャー 長岡京市教育支援センター ・第 3 回：講演 テーマ；「いわゆる『中 1 ギャップ』について考える」長岡京市教育支援センター
6) 講演：京都市教育相談総合センター	令和 4. 11. 7	京都市教育委員会が主催する「令和 4 年度全校種教職員対象とする研修」の「カウンセリング基礎コース」において、講義を行った（オンデマンド視聴）。テーマ；「不登校の理解とかかわりー予防的視点も交えてー」於；京都市教育相談総合センター（京都市）
4. その他（H29 までは略） （1）メンタルヘルスにかかわる		

<p>研修会 講演：甲子園短期大学</p>	<p>令和 4. 11. 19</p>	<p>兵庫県「介護従事者キャリアアップ研修会」の補助を受けて行われたキャリアアップ研修会（保育・福祉・介護施設等に勤務する卒業生および実習先職員、潜在的有資格者が対象）において、講義・実習を行った。 テーマ；「対人援助に携わる人のセルフケア」 於；甲子園短期大学（西宮市）</p>
<p>4. その他</p>		<p>なし</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 「不登校」	共著	平成 11.8	金剛出版 (初出: 金剛出版「精神療法」Vol. 19; No. 6 『不登校』 pp. 530-536, 1993 年 11 月 25 日発行)	事例に関する内容を含むため, 概要は省略する。 (第 4 章: 「不登校と家族の変化」) (pp. 74-93) (編者: 河合隼雄) (執筆: 河合隼雄, 町沢静夫, 堤啓, 酒井律子, 浅田裕子, 七里佳代, 平松清志, 永野浩二, 村山正治, 杉本好行, 川崎克哲)
2 京大心理臨床シリーズ ⑥ 「心理臨床における臨床イメージ体験」	共著	平成 20.3	創元社	事例に関する内容を含むため, 概要は省略する。 (第 5 章: 事例研究/第 4 節: 「心理臨床場面におけるイメージ体験の共有に関する一考察 ー比喻によるイメージ表現を通してー」) (pp. 532-540) (編者: 藤原勝紀, 皆藤章, 田中康裕) (著者: 藤原勝紀, 皆藤章, 田中康裕, 大山泰宏, 河合俊雄, 川崎克哲, 酒井律子, 下山晴彦, 徳田完二, 村本邦子, 森岡正芳, 森谷寛之ほか, 全 85 名)
3 京大心理臨床シリーズ ⑦ 「発達障害」	共著	平成 21.3	創元社	事例に関する内容を含むため, 概要は省略する。 (第 2 章: プレイセラピー/コラム: 「新たな認知の拓けと向き合っ」) (p. 207) (編者: 伊藤良子, 角野善宏, 大山泰宏) (著者: 伊藤良子, 角野善宏, 大山泰宏, 倉光修, 酒井律子, 千野美和子, 高石浩一, 田中康裕, 永田法子ほか, 全 69 名)
4 「不登校ーネットワークを生かした多面的援助の実際ー」	共著	平成 22.9	金剛出版 (初出: 金剛出版「臨床心理学」 Vol. 5 ; No. 1 『不登校』 pp. 57-61, 2006 年 1 月発行)	子どもの相談で訪れる保護者面接において, 配慮を要すること, 留意点, 保護者面接のもつ可能性等について考えるとともに, 「不登校」ならではの対応について考察している。 (第 2 章 7 「不登校の子どもをもつ保護者へのアプローチ」) (pp. 186-196) (編者: 田嶋誠一) (著者: 田嶋誠一, 滝川一廣, 辻井正次, 望月直人, 小坂和子, 木之下隆夫, 森嶋昭伸, 河合隼雄, 皆藤靖子, 酒井律子ほか, 全 33 名)
5 「心理臨床実践におけるスーパーヴィジョンースーパーヴィジョン学の構築ー」	共著	平成 26.3.20	日本評論社	心理臨床におけるスーパーヴィジョンを心理臨床学の観点から検討し直し, 心理臨床実践の場に根ざした「スーパーヴィジョン学」の構築を試みている。 (第 5 章 1 「スーパーヴィジョンの帰納的質的研究から」, 2 「帰納的質的研究による『スーパーヴィジョンの臨床性』」) (pp. 98-107) (編者: 皆藤 章) (著者: 皆藤章, 高橋靖恵, 浅田剛正, 久保陽子, 酒井律子, 田中慶江, 布柴靖枝)
(学術論文) ー現職と関連領域の研究・主な研究を記載ー				
1 Psychotherapeutic Group Work for The Aged with A Focus on Body and Emotion	共著	平成元. 12. 30	Hong Kong International Conference 1989 / Counseling in The 21st Century	高齢者福祉施設の入所者を対象に, 身体や感情の気づきに焦点を当て, イメージやbodywork 等を用いて内的活性化を目指した実践例についてまとめたものである。心理査定 (S R Q-R, H S, C A S, M M S, G B S) とグループプロセスの変化の視点から考察している。 (英文) (# 38-pp. 1-13) (著者: 酒井律子, 青谷啓司, 宮脇宏司, 岸本勘也)
2 盗みを主訴として来談した小3女子のプレイセラピー	単著	平成 8.6.5	金剛出版・「精神療法」Vol. 22 ; No. 3	事例に関する内容を含むため, 概要は省略する。 (pp. 291-298)

3 「カウンセラーを事例研究する - 1 カウンセラーにおけるセラピストモデル (像) の変遷と再構築 -」	単著	平成 15. 3	京都市立永松記念教育センター「子ども相談課紀要 - 創刊号 -	心理臨床実践に携わる者としての自らの体験過程を事例として取り上げ、カウンセラーの発達過程 (あるいはカウンセラーの成熟) の視点から考察を行っている。 (pp. 134-145)
4 「相談の運営をめぐっての一考察 - 『来談者とカウンセラーをつなぐ』『カウンセラーとカウンセラーをつなぐ』役割から見えてくるもの -」	単著	平成 18. 12	京都市教育相談総合センター「子ども相談センターパトナ」 カウンセリングセンター紀要 第2号	心理臨床実践のフィールドにおける職場組織の運営やコーディネータ役割、今後の課題について、組織の一員として働く心理専門職の視点から考察を試みたものである。 (pp. 83-94)
5 「学校現場における心理臨床的機能の生成プロセスに関する一考察 - 教職員チームへの定期的・継続的事例検討会の試みから -」 ※査読付	単著	平成 18. 3	京都大学大学院教育学研究科紀要 第54号	事例内容に関する概要は省略する。約5年間に亘り定期的・継続的に実施された「小学校教職員チームの事例検討会」について、事例検討の「場」と「語り」という視点から考察を行っている。 なお本論文は、日本心理臨床学会第25回大会での研究発表をもとに考察を行ったものである。 (pp. 450-463)
6 18年を経てふり返る阪神淡路・大震災『京都市一時留学事業』 - カウンセリング・スタッフの視点から -	単著	平成 25. 3	京都市教育相談総合センター「子ども相談センターパトナ」 カウンセリングセンター紀要 第4号 (開館10周年記念号)	平成7年の阪神・淡路大震災の発生を受けて実施された、京都市による震災支援事業「A市一時留学 (ラング・スティ: 子ども疎開事業)」をひとつの事例としてとらえ、カウンセリング・スタッフの視点から考察している。 2011年度 第1回 日本箱庭療法学会研修会 (第3分科会: 大正大学) での報告をもとに、あらためて考察を行っている。 (pp. 35-48)
7 箱庭制作者と砂箱との位置関係を箱庭作品理解に活かす試み - 制作者と見守り手の立ち位置の違い・撮影記録をめぐって -	単著	令和 3. 3	京都市教育相談総合センター「子ども相談センターパトナ」 カウンセリングセンター紀要 第8号	箱庭制作が行われた後、撮影記録を通して事例ふり返ることがあるが、箱庭制作の際の「制作者と砂箱との位置関係」にまで言及されている研究はほとんど無い。箱庭制作記録方法のひとつである撮影を行う際にも、制作者の制作位置に実際に立ち、作品を眺めることによって、より制作者および作品への理解が深まると考えられることについて提言を行ったものである。(pp. 157-164)
<p>(その他)</p> <p>- 現職と関連領域の研究、主な研究を記載 -</p> <p>[研究報告]</p> <p>1 学校不応応における親面接の意義を考える - 子ども本人が来談しない場合のカウンセリングの可能性について</p> <p>[総説]</p> <p>1 「心理臨床学事典」</p> <p>[口頭発表]</p> <p>1 Psychotherapeutic Group Work for The Aged with A Focus on Body and Emotion *筆頭発表 *発表責任者 ※前出の《学術論文-2》の項に同じ</p>	<p>単著</p> <p>共著</p> <p>共同</p>	<p>平成 6. 3</p> <p>平成 23. 9</p> <p>平成元. 12. 30</p>	<p>平成5年度 文部省科学研究費補助金奨励研究 (B), 課題請求番号 (05905007)</p> <p>丸善出版</p> <p>Hong Kong International Conference 1989 / Counseling in The 21st Century ; at Hong Kong (China)</p>	<p>公的教育相談機関において担当した「学校不応応」を主訴とする事例の中から、特に、保護者のみが来談した事例のみを抽出し、保護者へのカウンセリングのもつ可能性やその重要性について考察を試みたものである。</p> <p>教育領域における心理臨床と学校教育を繋ぐ新しい学問領域「臨床教育学」の考え方を基盤に、その視座が学校日常場面でのどのように生かされているのか、或る教職員の教育実践を例に挙げ解説している。 (第2章: 教育 32 「学校教育と心理臨床」) (pp. 202-203) (編者: 日本心理臨床学会) (著者: 岡田康伸, 鶴光代ほか, 全211名。執筆多数につき、編集委員の代表者2名のみ記載)</p> <p>高齢者福祉施設の入所者を対象に、身体や感情の気づきに焦点を当て、イメージやbodywork等を用いて内的活性化を目指した実践例について口頭発表を行った。(英語) (#38-pp. 1-13) (連名発表: ○酒井律子, 青谷啓司, 宮脇宏司, 岸本勘也)</p>

2 「小学校教職員チームへの定期的・継続的スーパーヴィジョンの試みースーパーヴィジョンにおける「時・空間」の非日常性・外部性に注目してー」	単独	平成 18. 9. 18	日本心理臨床学会第 25 回大会発表論文集／日本心理臨床学会、於；関西大学（吹田市）	定期的・継続的に実施されてきた事例検討会について、それを可能とした様々な外的条件について考えるとともに、事例検討会の「時・場」のもつ非日常性や外部性に焦点をあて、口頭発表を行い、考察を試みている。 (p. 28)
3 「心理臨床家養成におけるジェンダーの視点ー心理臨床実践におけるジェンダーの支援と大学院での学び」	共同	平成 27. 9. 18	日本心理臨床学会第 34 回秋季大会発表論文集／日本心理臨床学会、於；神戸国際会議場（神戸市）	自主シンポジウムにおいて、「ジェンダーコンシャスなアプローチ（10）」のテーマのもと、臨床心理士養成指定大学院の教員および心理臨床実践を行う心理臨床家としての立場から発表を行った。（企画者・指定討論者：中村このゆ、シンポジスト：酒井律子、岡本智子、興津真理子） (p. 679)
[研究記録] 1 「心理臨床実践における事例検討のあり方に関する研究」	共著	平成 19. 3	平成 18 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ・京都大学大学院教育学研究科「理論・実践融合による教育学の研究者養成」研究開発コロキウム研究報告書 -」	「臨床心理士養成における望ましいケースカンファレンスのあり方」についての検討を目的に、カンファレンスの構成要素についての調査を、全国の臨床心理士養成に関わる大学院に向けて実施した。併せて、日本心理臨床学会自主シンポジウムにて討議を行い、臨床心理士養成において留意すべき事や、心理臨床の専門性の抽出に向けての予備的研究を試みた。自主シンポジウムでは、話題提供のひとりとして、カウンセリングにおける「場」「倫理」の視点から発題を行っている。 (研究代表：根本真弓) (研究協力者：成田善弘、野島一彦、中村留貴子) (指導教員：藤原勝紀、皆藤章) (執筆：藤原勝紀、皆藤章、根本真弓、友久茂子、浦野エイミ、酒井律子、渡部みさ、原田宗忠、西田麻衣子、木之下隆夫、辻河昌登、内藤みちよ)
2 学校臨床実践・調査研究報告『不登校生徒の自立と学習を支える洛風にふれて』	共著	平成 19. 3	京都大学大学院教育学研究科臨床実践指導者養成コース（学校臨床実践・調査研究班）	学校のニーズを踏まえながら学校コミュニティへの参入を試みた、或る実践過程について振り返るとともに、子どもの「不登校」を主訴として来談した保護者面接における、面接場面での保護者の語りの変化に焦点をあて、考察している。 (第Ⅲ章：臨床実践課題としての「不登校」／第 3 節「不登校と家族ー保護者面接から思うことー」 (p. 22, pp. 48-54) (執筆：藤原勝紀、桑原知子、河内正明、友久茂子、浦野エイミ、酒井律子、根本真弓、渡部みさ他、全 13 名)
3 『『布橋灌頂会』に関する一考察ー心理臨床学的視点から』	単著	平成 27. 3. 31	甲子園大学紀要 第 42 号 (2015)	立山登拝の拠点、立山芦峯寺には、江戸時代から執り行われてきた「布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）」という女性のための宗教儀礼がある。廃仏毀釈により一度は途絶えたものの、136 年ぶりに現代的に再現され、関心を集めている。その意味について心理臨床の視点から研究するにあたり、研究の第一段階として、自らの儀礼参加体験を研究ノートとしてまとめたものである。 (pp. 55-60)
4 「心理臨床実践と大学院での学びー心理臨床家養成におけるジェンダー意識の視点からー」	単著	平成 28. 3. 31	甲子園大学紀要 第 43 号 (2016)	心理臨床実践と大学院教育における学びについてジェンダー意識の視点から照射し、今後の課題について述べたもの。前半では、心理臨床実践者としての立場から、ジェンダーについて考える契機となったことを紹介し、大学院教育に期待することを述べた。後半では、大学院教育を行う立場から、学部・大学院教育においてジェンダー意識にかかわる内容がどのように取り扱われたのか、自験例をもとに報告した。 (pp. 105-109)
[その他] 1 「巻頭言」	単著	平成 28. 3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第 10・11 合併号 (2016)	臨床心理士養成第一種指定大学院として、大学院教育において必要とされるものについて述べたものである。心理臨床実践における専門性の重要性は大前提のことではあるが、心理臨床実践現場では、社会人としての基本的マナー、心理臨床家としての常識も問われるようにことから、後者への意識づけに繋がる教育が大学院教育の中でも求められることにつ

2 「特集2にあたって」	単著	平成 28.3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要 10・11 合併号 (2016)	<p>いて述べている。 (pp. 5-6)</p> <p>甲子園大学発達・臨床センター主催の第11回心理臨床セミナーにおいて、「学校現場における衝動性への対応」を特集し、外部講師を招いての講演、事例検討会が行われたが、講師紹介とともに、本特集について述べている。 (p. 20)</p>
3 「巻頭言 -『親(保護者)面接』について思う」	単著	平成 29.3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第 12 号	<p>臨床心理士養成第一種指定大学院のための臨床心理センターでは、子どもの問題を主訴とする相談の面接形態として、「親子並行面接」の形態をとることが多い。その親(保護者)面接のあり方・目標とするところについての提言を行ったものである。 (pp. 5-6)</p>
4 「特集にあたって」	単著	平成 29.3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第 12 号	<p>甲子園大学発達・臨床センター主催の第12回心理臨床セミナーにおいて、「スクールカウンセリングにおける保護者支援」を特集し、外部講師を招いての講演、事例検討会が行われたが、講師紹介とともに、本特集について、日本におけるスクールカウンセリング導入の歴史を紹介しつつ述べたものである。 (p. 8)</p>
5 「雑感」	単著	平成 29.3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第 12 号	<p>臨床心理士をめざす大学院生に対し、学校心理臨床実勢に臨むに際して、自分の無意識の「学校バイアス」に気づいていることが大切であることについて、実習プログラムを紹介しつつ述べたものである。 (p. 21)</p>
6 「中年期の心理臨床をめぐって」	単著	平成 31.3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第13・14号合併号	<p>子どもの相談に携わっていると、「親面接・保護者面接」として中年期(～向老期)に位置する方たちと出会う事が多いが、その際にカウンセラーとしてもっておきたい視点について、自らの反省も交えながら、事例を通して考え述べたものである。 (pp. 24-25)</p>
7 「次世代の心理臨床を担う院生諸氏に向けて」	単著	令和 4.3	甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第16・17合併号	<p>心理臨床家をめざす大学院生に向けて、心理臨床実践を、そして研究を続けていく上で心に留め置きたいことについて、覚書的に記したものである。(pp. 8-9)</p>

以上